

【特集】心を通わせ縮まる9000kmの距離

触れてわかる異文化の魅力

初めてだらけの学生交流 ドナウエッセンゲン市学生訪問団9人が来市

上山での暮らしは驚きの連続

上山を訪れたド市学生訪問団が最も驚いたことは夏の気候の違いでした。「上山はジメジメして暑い」と口々に話し、ホストファミリーからももらった扇子が必需品に。パタパタと忙しく扇いでいました。

2番目に食文化。こんなにやくや納豆、寿司といった私たちの日常生活にあるものがドイツではあまり見られません。初めて食べる日本食の中でも、梅干しのすっぱさは、想像以上のようで口をすぼめる学生たち。それが癖になったのか何個も食べていました。

また、保育園や学校での過ごし方の違いもあります。スルヤさんは「保育園に一日いることはなく、昼も家で食べる。みんなで給食を食べることはない」と話し、上山明新館高校を訪問する前には「高校生は夏休みになるとみんな旅行に出かける。学校には誰がいるの」と不思議そうに話していました。

と不思議そうに話していました。

日本の日常生活に飛び込んできて、触れた違いは、学生たちにとって新鮮で驚きの経験だったようです。

日本の学生が感じた交流の楽しさ

より多くの本市の学生たちに、国際的な見識を持ってもらおうと、ド市学生と国際交流する機会を設けました。

6日に蔵王でのお釜見学や木工体験に参加した橋本彩さん(2年)は「言葉が不安だったが顔の表情を見ながらコミュニケーションがとれた。もっと語学を学びたい」と話します。

8日の上山明新館高校訪問では、生徒会のメンバーが中心となり、学校案内やうどん作りで交流。生徒会長・中野涼美さん(3年)は「最初は異文化交流には興味があつたけど、もっとド市の学生と交流して、ホームステイや語学留学がし

10	9	8	7	6	4・5	3	2	1	7/31	
上山出発	名取市視察	上山明新館高校訪問	山寺観光・山形花笠見学	ぐらで木工体験	お釜見学・ZAOたいら	ホストファミリーの日	子作り体験	東和薬品工場見学・和菓子作り体験	しらすぎ保育園で交流・	市役所訪問・市内見学
										歓迎交流会
										上山到着

滞在スケジュール

てみたいと思つた」と国際交流に魅力を感じていました。それぞれ短時間の交流でしたが、英会話に挑戦し、一緒に作業に取り組む中で、目の前にいる外国人に自分の意見を伝えることの楽しさを感じていました。海外に行かなくても外国人と直接触れ合い、文化を学んだことで、高校生たちにとって勉強への意欲となりました。

7/31 ド市学生訪問団来市



午後7時46分、かみのやま温泉駅に到着。ホストファミリーも学生もドキドキしながら握手を交わす。これからどんな生活を送るのか不安を募らせながら、各家庭へ向かった

8/1 歓迎交流会



ド市学生訪問団とホストファミリー、東北文教大学の学生が参加。日本の大学生たちは、友人と一緒に片言の英語で趣味などの話をしながら、会話を楽しんだ

8/2 市内見学



新藤茂吉記念館や武家屋敷、上山城を見学し、足湯も体験。振る舞われた玉こんにゃくは、ドイツで体験することのできない食感で驚いていた

8/3 しらすぎ保育園訪問



ビショ濡れになりながらプールで水遊び。ド市の学生たちは「人間トンネル」をくぐる遊びを考案した。別れ際、名残惜しそうにしていた園児は「プールと一緒に入って楽しかった。もっと遊びたい」と学生たちを見送った

8/8 上山明新館高校訪問



茶道部で抹茶と和菓子を体験。ド市の学生も明新館の先生や生徒の手ほどきを受け、抹茶を初体験

8/9 名取市役所訪問



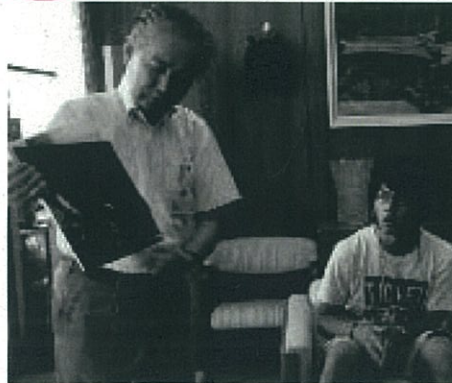
茶道部で抹茶と和菓子を体験。ド市の学生も明新館の先生や生徒の手ほどきを受け、抹茶を初体験

關上地区を視察



津波の被害の跡が残る街を見てトーマス先生は「実際に見ると改めて被害の大きさを感じる。自分たちにできることを生徒と話してみたい」と話した

8/9 名取市役所訪問



津波の被害の跡が残る街を見てトーマス先生は「実際に見ると改めて被害の大きさを感じる。自分たちにできることを生徒と話してみたい」と話した

佐々木一十郎市長は「上山を通してド市から支援いただき、感謝したい。今後、津波に耐えられるような街にしていきたい」とあいさつ。震災時の名取市の状況をパネルで説明すると、学生たちは震災の悲惨さを目に焼き付けていた

ド市学生訪問団紹介

参加した動機や上山に来て感じたことを聞いてみました

マティス「異文化を肌で感じたいと思った。あいさつすると知らない人でも返してくれるところがいい」
 オト「兄が訪問団に参加したのがきっかけ。上山の人は友好的で物静かである。プールや昼寝の時間などドイツとは違った保育環境に驚いた」
 ケビン「母は日本人で、他の地域に行くのは初めて。緑が豊富でド市とは違った色のコントラスト。蔵王など素晴らしい自然がたくさんある」
 カイ「柔道を通して、サムライ文化に興味があった。旅行者では経験できない、日常生活を体験できてとても光栄」



カイ・ファビアン・シェンク (20歳)

デニス・ハーゼンフラッツ (16歳)

井上優花さん(長崎大1)

ケビン・ケスラー (16歳)

トーマス先生 (40歳)

アレキサンダー・オト (19歳)

マティス・ギルスバッハ (18歳)

スルヤ・ヴォルレ (19歳)

ロベルト・ラング (20歳)

アレキサンダー・ヘルピッヒ (17歳)